



# 震災をきっかけに生まれた 同じ校名を持つ遠くの学校との「絆」

東日本大震災に対する募金などの支援を、滋賀県草津市立玉川中学校から塩竈市立玉川中学校に寄せたことをきっかけに、両校の交流が始まりました。その交流を題材とした発表が、平成二十八年六月十七日に塩竈市立第二中学校で開催された「少年の主張塩竈市大会」において最優秀賞に輝きました。偶然から始まった交流を大切にしていきたいという気持ちで作られた作品を紹介します。

## 玉川の絆

塩竈市立玉川中学校

三年 今野 竜馬

どんなに離れていても  
心はひとつになる

僕たちはつながっているよ

この曲は、二つの玉川中学校のために作詞作曲され、両校に贈られた、「ひとつになる」という曲です。二つの玉川中学校とは、私が通っている玉川中学校と、滋賀県草津市立玉川中学校です。

草津市立玉川中学校との交流は、東日本大震災で支援を受けたことから始まりました。同じ玉川中学校の名前を持ち、それも歌枕に由来する地名を持つ玉川中学校

は全国に二つしかないことを知り、支援をしてくださったそうです。それに対して、先輩方が感謝の気持ちを込めてビデオレターを送ったことから交流が始まり、両校の生徒会の代表が、互いに学校を訪問するまでになりました。そして、そのことを知った草津市の演奏家の方が、知り合いの作曲家に依頼をして、二つの玉川中学校に曲を贈ってくださったのです。私は生徒会代表として三月十八日、十九日に草津市立玉川中学校を訪問しました。新幹線を使って片道約七時間の道のり、実際に距離を感じ、こんなに離れているのに、自分たちのことを調べてくれて支援をしてくださったことに改めて感謝の気持ちが込み上げて

きました。私たちはあふれる拍手の中、体育館に入場しました。他校の人間を快く歓迎してくださり、うれしかったです。そして、驚いたことに、正面のスクリーンに、塩竈の玉川中学校の様子が映し出されていました。写真ではなく、webカメラを使い接続されていて、塩竈にも草津の映像が映っていることを知らされました。

いよいよ「ひとつになる」の合唱が始まりました。両校同時に歌うのは初めてで、生徒の声が体育館いっぱい響き渡り、遠く離れたいる中学校同士が本当にひとつになった記念すべき瞬間でした。私は、二つの学校が奏でるハーモニーを聞きながら、この瞬間に立ち会えたことを、うれしく思うのと同時に、二つの玉川中が、リアルタイムで塩竈と草津で合唱している不思議さを感じました。また、これから先、どんな交流ができるのか思いを巡らせていました。草津玉中の会長と、カメラやモニターを通して生徒会で定期的に会議を開いたり、ふとしたときにいつでも、「あっ、どうも」みたいなやりとりができたからおもしろいなあと話しました。そのように、全校生徒をもっと巻き込んで、交流を活性化させることもできるのではないかと思います。

東日本大震災をきっかけにして始まった「玉川の絆」。この大震災がなければ、おそらくこの交流は始まっていなかったと思います。私も、たまたま生徒会長に選ばれ、このような経験をする事ができました。また、そこにはたくさんの方が関わってくださっています。こうしたさまざまな偶然を、必然に変えていくことが自分の役割ではないかと強く感じています。そして、交流が始まり五年以上が経過した今、考えていかなければならないのは、お互いに素晴らしい学校を目指して切磋琢磨し合う未来への姿なのだと思います。

この春、「玉川の絆」を記念して植樹したピンクと白の「ハナミズキ」がたくさんのきれいな花を咲かせました。二つの玉川中学校の交流をやさしく見守るかのよう



▲作品を発表した今野竜馬さん  
(塩竈市立玉川中学校3年)  
「震災をきっかけに他校と交流していることをたくさんの方に知ってほしいです。」

問 青少年相談センター ☎364-17445